

# 市場動向

(2021年11月～2022年1月)

## 六本木地区

### 売買状況

(土地・建物)

六本木7丁目で、再開発を目的として売買取引が行われていた。買主は資産管理会社で売買金額は約20億であった。既にビルの建て壊しも始まっている。

また、六本木3丁目、住友不動産が所有する外苑東通りに面するビルで、開発に伴う立退きが終了し、建て壊しが始まっている。

六本木のあらゆる場所で解体・建築・駐車場化と、日々姿を変えており、六本木の街から目が離せない。

### 賃貸状況

都心の感染者数が徐々に減り明るい兆しが見え始め、解約は以前と変わらず少ない状況である。

来店や問合せ等は増えており、長らく募集していたスケルトン物件であっても数件申込みが重なり成約する等出店意欲を強く感じた。

需要としては10坪程のカラオケバーが圧倒的に多く、シーシャバーやガールズバー等の問合せも多い。

20坪～30坪で個室カラオケバーやキャバクラ・ラウンジ等も需要がある。また、50坪以上の大箱の需要もあるが、対象となるビルが少なくエリアを変え広く探している方も多い。

### 街の状況

感染者数が日々減少を続け、人々の自粛モードも少しずつ和らぎ始めた頃に忘年会シーズンが到来し、サラリーマンやOL等の会社関係であろう団体が楽しそうに街を行き交い飲食店も活気を取り戻した感じであった。

クリスマス当日になると駅からミッドタウン間、ミッドタウンから六本木ヒルズ間を行き来するカップルや女子高生の集団が多く見られ、移動の道中すらも野外イベントかのように混雑し幸せムード”拡散”であった。

1月に入り人工知能の予測通り、爆発的な感染者増加となり街の雰囲気は一変し再発令となる「蔓延防止等重点措置」後には飲食店の客入りは少ないようで、今後も油断を許さない状況が街に大きな影響を与えていくであろう。